

米軍ヘリの沖縄・久米島への緊急着陸に抗議し、 普天間基地の即時運用停止、撤去を求める

2018年9月6日 日本平和委員会

9月5日午後、沖縄県久米島町の久米島空港に米軍普天間基地所属のUH1Y多用途ヘリコプター1機が緊急着陸した。同型機は今年1月にうるま市の伊計島の海岸に不時着、4月には熊本空港に緊急着陸した。同基地所属の緊急着陸・不時着は、8月にオスプレイ2機が嘉手納基地と鹿児島県の奄美空港に緊急着陸したのをはじめ、今年に入って8件目となる。

もはや、普天間基地と県民生活が共存できないことは明らかである。辺野古新基地建設を普天間基地の危険性除去の「唯一の選択肢」とし県民の命を危険にさらし続けることは、もはや許されない。今回の県知事選挙で、故翁長雄志知事の後継者・玉木デニー氏は、普天間基地の2年以内の運用停止を求めている。今年2月、県議会は全会一致で普天間基地の即時運用停止を二度にわたって決議している。普天間基地の無条件運用停止と閉鎖・撤去——故翁長知事が求めたこの方向にこそ、普天間基地の危険性除去の真の解決の道がある。

私たちはこのことを断固求めるとともに、来る沖縄県知事選挙で、安倍政権の言いなりになって辺野古新基地建設を推進する勢力ではなく、辺野古新基地建設阻止、普天間基地の閉鎖・撤去を求める「建白書」実現を求める「オール沖縄」勢力を勝利させるため、全力を挙げる決意を表明する。